

# 1人1台端末環境を基盤とした授業改善

2024.11.15  
岡山県教育委員会  
教育情報化推進室

## 児童・生徒同士がやり取りする場面のキーワードは「他者参照」

令和3年1月公表の「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）」において、3つのキーワード「個別」「協働」「ICT」の記載数を確認すると次のような結果になります。

「個別」72 「協働」71 「ICT」153

そして、ICT（主として1人1台端末及びクラウド活用）について、次のような記述があります。「これまで繰り返し述べてきたように、『令和の日本型学校教育』を構築し、**全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するためには、学校教育の基盤的なツールとして、ICTは必要不可欠なものである。**」（P30） これらを参照しながら、県、市町村教育委員会の指導担当者間で、

「1人1台端末環境を基盤とした授業改善 ≒ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

と共通理解を図りつつ、日常的なICT活用頻度等を指標としながら授業改善を推進しています。

また、令和6年7月公表の「次期ICT環境整備方針の在り方ワーキンググループの取りまとめ」において、「**個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実に向けた授業改善の度合いが反映されると考えられる内容**」として、全国学力・学習状況調査 学校質問紙「ICTを活用した学習状況」の4項目が挙げられています。その項目と令和6年度の岡山県及び全国の結果（一部）は次のとおりです。

※ 単位は% 【 】は全国平均

| ICTを活用した学習状況<br>(学校質問紙項目) | 小学校            |                | 中学校            |                |
|---------------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
|                           | ほぼ毎日           | 週3回以上          | ほぼ毎日           | 週3回以上          |
| 自分の考えをまとめ、発表・表現する場面       | 19.5<br>【19.7】 | 40.1<br>【35.4】 | 23.9<br>【19.4】 | 29.0<br>【32.5】 |
| 教職員と児童・生徒がやりとりする場面        | 30.4<br>【32.1】 | 33.1<br>【27.6】 | 31.0<br>【31.1】 | 24.5<br>【26.3】 |
| 児童・生徒同士がやりとりする場面          | 15.3<br>【17.4】 | 32.9<br>【27.6】 | 16.1<br>【16.9】 | 27.7<br>【24.2】 |
| 特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面   | 20.1<br>【19.3】 | 34.3<br>【33.5】 | 13.5<br>【14.8】 | 20.0<br>【27.4】 |

小・中学校共通の課題として、他の場面と比べて「児童・生徒同士がやりとりする場面」での活用頻度が低いことが挙げられます。具体的な学習活動として「お互いのファイル等を参照し、コメントしながら学びを深める」「学習の振り返りを共有のファイルに入力し、各々の振り返りの視点や学び方等を参照しながら自分の学びに生かす」などが想定されます。1人1台端末を活用して児童生徒が#すぐに#いつでも#誰とも#大量に「他者参照」できるように学習環境を工夫することがポイントです。授業や家庭学習において、「児童・生徒同士がやりとりする場面」を意識的に設けることが個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実につながる一手であると考えます。